

主たる利用者を知的障害者とする他の県立等施設の状況

資料3

【定員が200名以上の施設】

(単位：人，千円)

都府 県名	施設名	運営主体	開設 年度	入所 定員	平均支 援区分	給与水準 人件費/職員数※1	職員数	非正規 職員割合	備 考 (H28年7月現在)
宮城県	船形コロニー	県社会福祉協 議会	S48	210	5.0	6,051	156	34%	H27 整備検討会を経て、現地建替えの 整備基本構想策定。
山形県	県立総合コロニ ー希望ヶ丘	県社会福祉事 業団	S49	350	4.8	6,149	206	40%	H33 以降に建替えを予定 (H28.4月事業団に移譲)
埼玉県	県立嵐山郷	県社会福祉事 業団	S51	329	5.7	7,164	276	41%	現在予定なし
東京都	千葉福祉園	都社会福祉事 業団	S18	390	4.5	5,781	264	20%	H2～6 建替済
大阪府	府立金剛コロニ ー	府障害者福祉 事業団	S45	260	5.2	3,709	251	43%	H27・28 事業団が新施設を整備中
茨城県	県立あすなろ の郷	県社会福祉事 業団	S48	462	5.6	5,952	375	35%	
(参考) 愛知県	心身障害者コ ロニー養楽荘	直営	S44	140 ※2	5.3	7,406	32	38%	H28.7 廃止(民間施設等へ移行)

(データは平成26年度(末)時点のもの)

※1 職員数には非正規職員を含む ※2 現員は36名

県立あすなろの郷検討に係る先行事例調査結果

府県名	愛知県	大阪府
施設名	心身障害者コロニー(養楽荘)	金剛コロニー
設立の概要		
開設	S44	S45
運営主体	直営	指定管理:府障害者福祉事業団
面積	敷地面積:約74ha 建物面積:延 67,106㎡	敷地面積:約82ha 建物面積:延 50,806㎡
設立の趣旨	知的障害児者のライフステージに併せた施設を1箇所で開催できるように、病院から学校、障害児・者の入所施設、研究や訓練施設等をコロニー内に順次整備。	心身障害者を長期間収容し、居住させ、育成する目的で、施設を広大な土地に集中的に建設し、総合施設としてコロニーを建設。
再編前の機能・規模	(H18.4) 定員560名(障害者施設としては250名) ・重症心身障害児施設(180) ・知的障害児施設(130) ・知的障害者更生施設「養楽荘」(150) ・知的障害者授産施設(100)	(H15.4) 定員 850名(障害者施設としては750名) ・知的障害者更生施設(460) ・知的障害者授産施設(290) ・知的障害児施設(100)
	・中央病院(200) ・発達障害研究所 ・職業訓練校(100人) ・発達障害者支援センター (特別支援学校も併設)	
再編計画		
背景	H17ごろ、自立支援の流れと施設の老朽化をきっかけに、コロニーが主体で再編計画を進める。当時のコロニー総長のリーダーシップ。	コロニーの再編は、民間移行の流れの中、財政部署からの主導で行われたと思われる。
プロセス	・H17.5: 県社会福祉審議会の答申「愛知県心身障害者コロニーの今後のあり方について」 →「障害のある人たちが可能な限り《自立》し、地域の人たちと《交流》しながら、安心して生きがいを持って共に生活できること《共生》」 ・H19.3: 愛知県がコロニー再編計画を策定 →「入所者の計画的な地域生活移行支援」「地域生活支援の拠点センターへの転換」	・H10: 府立社会福祉施設等のあり方検討会 →「民間でも対応可能な機能は、各圏域に機能を分散する」 ・H13: 府行財政計画→「民間で対応可能な分野は、順次、民間移行をすすめる」 ・H15: 金剛コロニーあり方検討 →「地域移行」「種別変更」「老朽化による建替」「整備する施設ごとに民営化」 ・H19: 金剛コロニーの再編について(案)→「今後10年間で計画を完了」 ・H22: 府財政構造改革プラン →「29年度の民営化をめざす」
考え方	・障害者は地域移行を、専門的支援が必要な障害児と医療的支援が必要な障害児者は県で引き続き支援を行っていく。 ・関係機関等とのネットワークづくりを進め、専門的・広域性の観点に立った医療及び療育両面からの総合的な地域支援を行っていく。	・府と民間の役割を明確化し、民間で対応可能な分野や民間へ移行する。 ・入所施設から地域生活への移行を着実に進めるとともに、利用者の状態にあった施設へ転換し、大規模施設の再編を図る。
期間	19年度からおおむね10年間	19年度からおおむね10年間(29年度まで)
再編計画の主な取組内容	(県) ・病院と重心、研究機能を合わせた医療療育総合センター(仮称)設立 ・知的障害者授産施設の廃止(H21.廃止) ・障害者支援施設「養楽荘」の廃止(H28.7) (民間) ・「養楽福祉会」等による利用者の受入、施設の建設(80)	(府) ・児施設の運営(指定管理で継続) ・知的障害者授産施設の廃止 (事業団)※「整備する施設ごとに民営化」 ・「種別変更」重心施設、特養施設の設置 ・「老朽化による建替」障害者支援施設(60×3棟)の設置 ・「地域移行」府内各地域におけるGHの設置

県立あすなろの郷検討に係る先行事例調査結果

府県名	愛知県	大阪府
施設名	心身障害者コロニー(養楽荘)	金剛コロニー
再編・建替の状況		
実施主体	愛知県	大阪府障害者福祉事業団 (再編後総称は「こんごう福祉センター」になる) (H23:府の指定出資法人を解除)
再編後の機能・規模(予定)	医療療育総合センター(仮称) ○医療支援:病院(147), 重心(120), 研究(5学部) ○地域療育:福祉型障害児(37), 発達障害者支援センター 障害者支援施設の定員 0名	・重心施設(105), 知的障害者向け特養施設(80)の設置 ・障害者支援施設(60×3棟)の設置 ・府内各地域におけるGHの設置(現在定員537名) ※福祉型障害児入所施設(100)については検討中だが府立施設のまま整備する方向 事業団立障害者支援施設の定員 180名
スケジュール	第1期:H26～H27(H28.6竣工) 第2期:H28～H30	重心・特養:H19～H20 障害者支援施設:H26～H28
総費用	約110億円	府から財政支援した事業団積立金のトータルは約55億円。
財源	地域医療再生基金を活用	H15から、県の支援で事業団に積立てを行っている。 ※再編整備終了時期の平成29年度以降は、県からコロニーに関する経費は出さないという考えが背景にあったと思われる(平成29年度以降は独立採算方式となる見込み)。
地域移行等		
実績	154名(H18～28)※養楽荘のみ	392名(H18～27)
主な移行先	・出身地域を踏まえた民間の入所施設やグループホーム ・身体障害者向け施設や療養介護、そして特養。 ・コロニーの親の会が母体の「養楽福祉会」(S51保護者会設立。S62入所施設開設)	・事業団で敷地内に整備した重心施設や特養施設 ・各地域の事業団立のGH ・民間入所施設, 民間のGH
取組	・再編中は新規入所受入を完全に停止 ・保護者向け説明会の繰り返しの実施 ・GH見学会, 移行訓練・体験の実施	・再編中は新規入所受入を完全に停止 ・保護者向け説明会の繰り返しの実施。体験入所の推進。 ・GHに移行した人が再入所する例はあり。「戻ってくる場所」は確保した。
施設整備補助・支援	・重度35名程度は行先が見つからなかったため、県で受入施設の公募を行い、「養楽福祉会」による施設の建設を認め(80名), 残り全員の受入を行った。(H28.6) ・国庫補助は採択され、県も協調で補助を行っているが、県単独での補助はない。ただし、県有地の無償貸与は実施。	府では圏域ごとに「地域移行センター事業」を実施。GHを整備し、コロニー等の府立施設から定員の半分以上利用者を受け入れる場合には、人件費や家賃等の運営費を3年間府が補助している。
その他		
ネットワーク等	・医療型障害児入所施設は圏域ごとに整備中。重心施設に名古屋大学や県医師会を加えたネットワークもできてきている。 ・研究部門もあるので、コロニーは障害に関するネットワークの拠点に位置付けられている。	事業団が民間職員も対象にした研修は行っている。
課題・その他	S30代から、民間の社会福祉法人に対して人件費補助や建設借入金の利息分の補助を行ってきている。	事業団としては、地域移行した利用者の高齢化が課題。今後はハードを整えたGHが必要となってくる。